

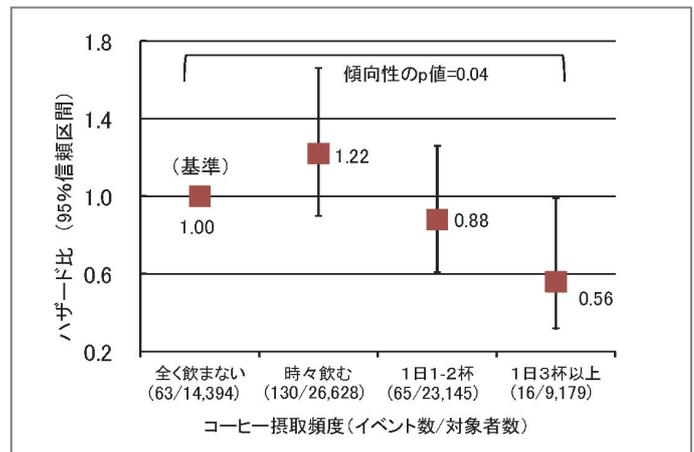
## コーヒー摂取と膀胱がん罹患リスクの関連： 宮城県コホート研究と大崎国保コホート研究

The association between coffee consumption and bladder cancer incidence in a pooled analysis of the Miyagi Cohort Study and Ohsaki Cohort Study.

2016年 European Journal of Cancer Prevention 発表

### コーヒー摂取頻度が高い人ほど、膀胱がん罹患リスクが少ない

わが国における膀胱がんの罹患数は年々増加し、2011年における膀胱がん罹患患者数は20,307人でした（地域がん登録全国推計によるがん罹患データ）。そのため、生活習慣による罹患予防が必要であると考えます。そのようななか、コーヒー摂取はいくつかの部位別がんのリスク低下と関連していることで注目されています。しかしながら、膀胱がんとの関連は先行研究で一致していません。本研究では、大規模な前向きコホート研究である宮城県コホート研究と大崎国保コホート研究のデータを統合して、コーヒー摂取頻度と膀胱がん罹患リスクの関連を検証しました。その結果、コーヒー摂取頻度が高い人では膀胱がんになるリスクが少ないことを明らかにしました（図）。



### 研究のデータについて

本研究は、宮城県内の2つの研究データを用いて分析を行いました。1つ目は宮城県コホート研究で、1990年6-8月に宮城県内14町村在住の40-64歳の男女約51,921名に対して自己記入式アンケートを配布し、そのうち47,605名から有効回答を得ました（回答率91.7%）。2つ目は大崎国保コホート研究で、1994年10-12月に宮城県大崎保健所管轄14市町（当時）居住の40-79歳の国民健康保険加入者54,996名に対して健康に関する自己記入式アンケートを配布し、そのうち52,029名から有効回答を得ました（回答率：94.6%）。本研究ではこのうち、追跡開始日以前に異動した者、がん診断日がなかった者、両コホートに登録していた者の大崎国保コホートデータ分を除外し、さらにベースライン時点でがん既往歴のあった者、コーヒー摂取頻度の質問に回答しなかった者を除いた73,346名について分析を行いました。追跡期間は宮城県コホート研究で17.6年間、大崎国保コホート研究で13.3年間であり、この間に計274名の膀胱がん罹患がみられました。

### コーヒーの摂取頻度について

コーヒーの摂取頻度は、アンケートの回答から得ました。摂取頻度は「飲まない」、「ときどき飲む」、「1日1-2杯」、「1日3-4杯」、「1日5杯以上」の中から選択していただきました。「1日3-4杯」、「1日5杯以上」と回答した方が少なかったため、2つを「1日3杯以上」に合わせ、合計4群に再分類し、「飲まない」群を基準としてコーヒー摂取頻度に対する膀胱がん罹患リスクを解析しました。

### 他のリスク要因の影響について

コーヒー摂取頻度が高い者ほど、年齢が若く、体格が小さく、脳卒中・心筋梗塞・高血圧・糖尿病の既往割合が少なく、最終学歴が高いことがわかりました。また、コーヒー摂取頻度が高い者ほど、従業員である割合が大きく、現在喫煙率や飲酒率が多いことがわかりました。これらの要因は、コーヒー摂取と膀胱がん罹患リスクの真の関連に影響を及ぼす可能性がありました。したがって、先述のコーヒー摂取頻度の4群間に、これらの要因で偏りが生じないように、統計学的な解析を行いました。

### 研究の特徴と限界について

本研究の特徴は、2つの大規模コホートデータを統合して膀胱がんの罹患患者数を増やした点です。一方、本研究の限界は、（1）コーヒーの淹れ方やカフェイン含有の有無に関する質問ができなかったこと、（2）追跡期間中にコーヒー摂取などの生活習慣を変化させたかどうか知ることができなかったことなどが挙げられます。